

第5章

農業構想における目標

本構想では、将来の「食と花の都」の指標と目標を次のように設定します。

基本方針	指標	現 状 平成 25 (2013) 年	中間見直し 令和元年 (2019) 年	目標数値 令和 4 (2022) 年
基本方針 1 競争力のある食と花の 確立	水稻作付面積	24,500ha	—	24,500ha
	うるち米 1 等米比率	78.10%	—	90%
	学校給食における地場農産物（野菜・果物・きのこ）の利用割合	25.20%	—	30%
	◎新たな園芸産地の形成	—	累計 3	累計12
基本方針 2 意欲ある多様な 担い手の確保・育成	認定農業者への農地集積率	54.29%	—	85%
	新規就農者数	66人	—	各年70人
基本方針 3 力強い農業生産基盤等 の整備・保全	市管理農業用排水機場の長寿命化対策工事の実施数	0 機場	—	10機場
	ほ場整備率	48.90%	—	60%
基本方針 4 魅力ある田園環境の 創出	多面的機能支払の取り組み率	62.50%	—	95%
	主食用水稻作付面積に占める化学合成農薬・化学合成肥料を 5 割以上削減した栽培面積の割合	34.40%	—	50%
	◎田んぼダムの面積	5,000ha	5,979ha (H30実績)	6,500ha
基本方針 5 食と花の理解を深める 農のある暮らしづくり	農業サポーター活動人数 (延べ活動日数)	延4,621日	—	延6,500日
	教育ファーム（農業体験学習） 取り組み小学校割合	86.70%	—	各年100%

※指標欄の◎は、中間見直しにより追加、変更したものの。

※農産物の生産に関する指標については目標年における気象状況等が影響する場合があります。

※認定農業者への農地集積率と新規就農者数については、「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」の見直しと合わせて精査します。